

土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、 地震・災害のしくみと防災のあり方



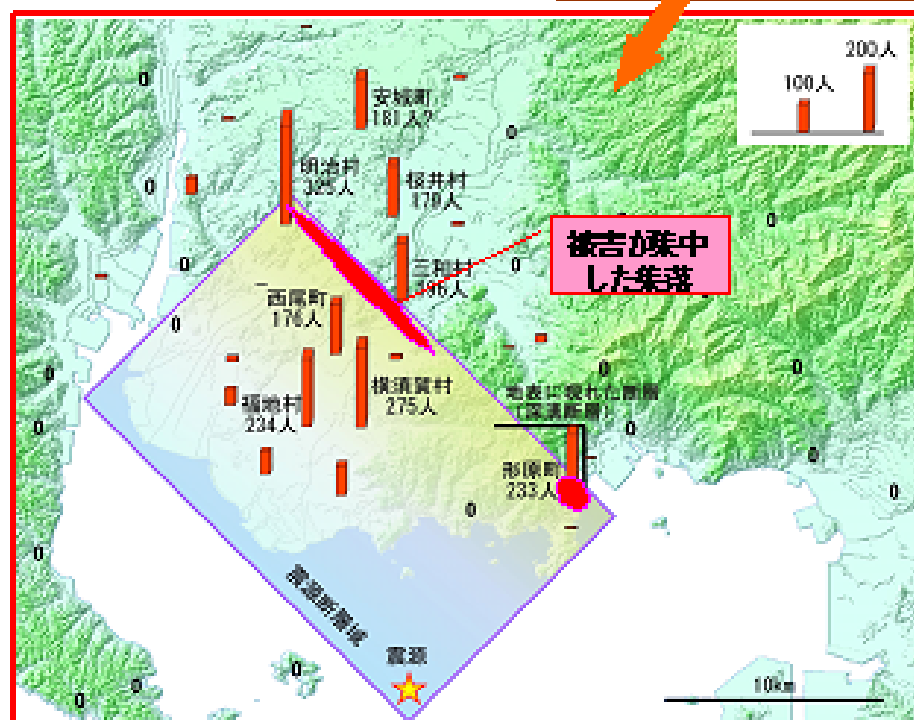
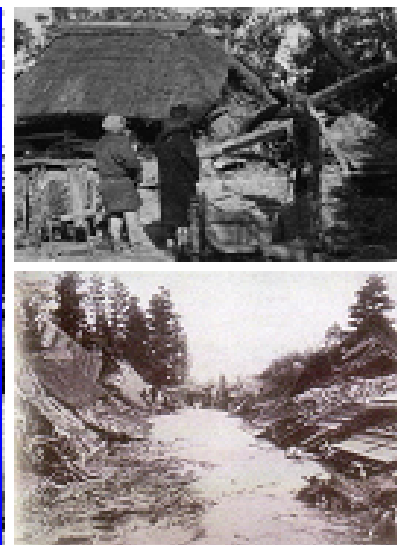
歴史災害教訓伝達プロジェクト
～1944東南海・1945三河地震

地域の被災体験を視覚化し、住民間で共有する試み ～地域の災害イメージを豊かにすることで、防災へ！

1945年三河地震

・死者2306人

・第2次世界大戦末期の報道管制下において、具体的被害報道が制限された。写真も少ない。



三河地震インタビューをした方々とその被災場所

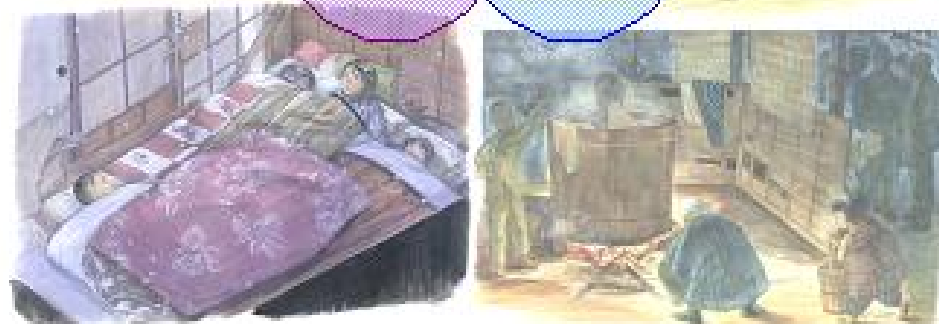
24件

地域の災害体験を子どもたちに継承して、 子どもたちの防災マインドを育てる



視覚化された地域の被災体験を、次世代を担う子どもたちに伝えていく

① 教育プログラム



② 教材



特徴の異なる3つの小学校(昔からの地域・新旧混合地域・外国人地域)で実践

2つのプログラムの実践（1）

1. 2時間で学べるプログラム（複数クラスの児童向け）

1時間目

1. 地震って何？



動画や写真を使って地震被害、特に過去の災害での地域被害について説明をする。

2. 地震が起こると何が大変なの？



被災者の体験談を、司会者との対談形式によって、話を聞く。

2時間目

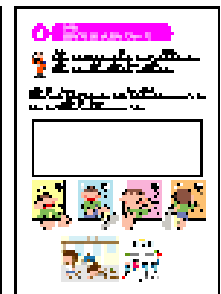
3. さまざまな防災の知恵を体験しよう！



班にわかれて3つの屋台をまわりながら防災の知恵を学ぶ

後日（総合的学習の時間）

4. 復習しよう！



体験談を復習し知識の定着化を図る

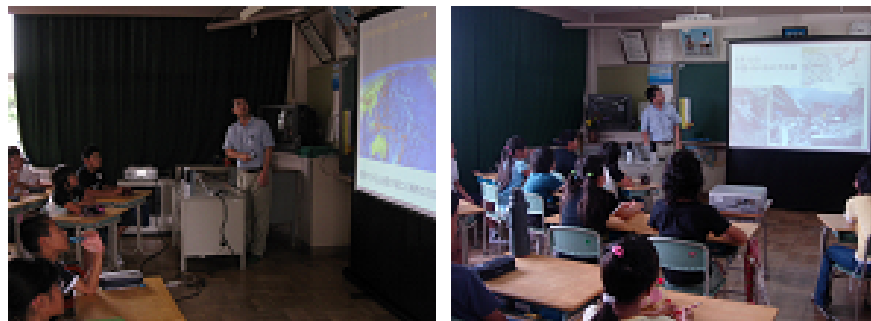


桜林小学校（新旧住宅地混在）・祥南小学校（ブラジル人家族等）で実施

2つのプログラムの実践（2）

2. 1年間にわたるプログラム（1クラスの児童を対象）

2. 地震ってなに？



動画や画像を使って地震と被害について説明をしてくださいました。

3. 地震が起きると何が大変なの？



被災者のお話を聞きました。司会の心理学の先生が、体験談の絵をもとに質問しました。

4. 地震について復習しよう



被災者の方の話をもとにした手作りドリルを答えながら、お話をふりかえりました。

5. みんなで答えあわせをしよう



みんなで答え合わせをしました。「地震だ！」という合図で机の下にもぐりました。

7月11日の2時間授業（キックオフ）をきっかけに、1年間の試みがはじまった

総合的な学習「防災学習」年間プログラムを構想する

①問題を見つける

自分の問題としてとらえる



鈴木敏枝さん 岩手県大船町へ
 この町は地震が1974年に発生して以来、大きな地震はほとんどありません。でも、この町には、地震の被害が最も多いと知られることがあります。地震がどこに起こるのか、その被害はどのくらいか、私には地震が怖いので、早くから地震のことを勉強して、地震の被害を減らすために、自分自身を守りたいと思っています。

②追究する

問題解決のための調べ学習

「地域」学習

- ・聞き取り
- ・マップ作り



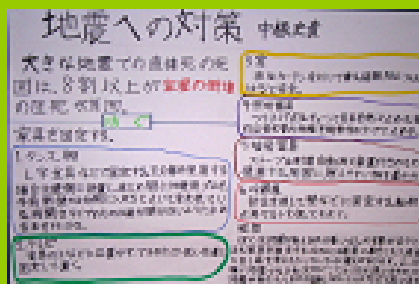
宇賀赤屋町

- ・余震で田んぼを耕す牛が立てなくなって、人の手でやった
- ・壊れた車もあり、神社では打るうやこ木が倒れた
- ・家が全壊して、外に引っ越して生活した
- ・地震からお風呂に入れず、風呂の湯にしろがわいた

③表現する

まとめ作り

学芸会の劇での再現・発信



④自己を考える

行動目標をもつ



三河地震被災体験談からの想い

年間プログラムの実現にむけて（例）

1 単位時間の授業を積み上げていく（帰納的）

1時間の指導案作成

目標

① 学習課題の設定

「家に一人でいる時に地震がきたら
どうするか」

② かかわり合う場の設定

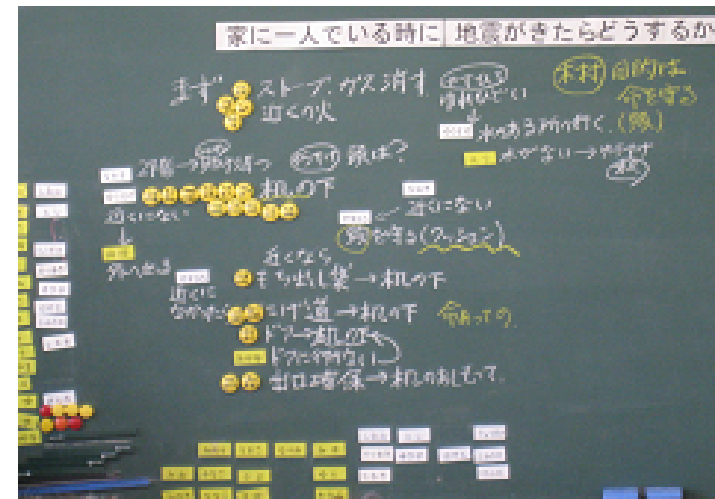
自分が調べたこと考えたことと、友だち
ちのもっているものとのすり合わせ

③ 自己に返す場の設定

具体的な行動がわかる

- ・机の下にもぐる
- ・出口確保
- ・頭と足を守る

評価

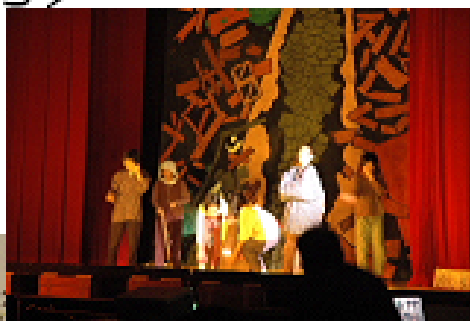


勉強した地震のことを伝えよう (酒井夏海)

毎日新聞11月15日
(学芸会当日朝刊)

三河地震を創作劇に

安城市立志貴小 6年生 被災者の体験談聞き

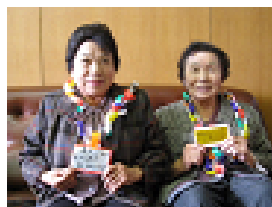
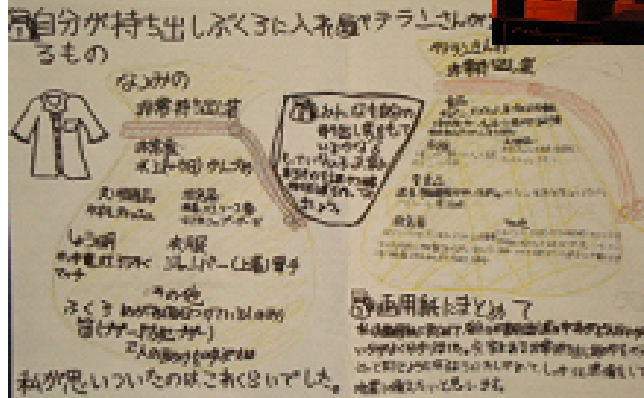


安城市立志貴小学校の6年生27人が13日の学芸会で、犠牲者2306人を出した1994年の三河地震の創作劇「地震に備けなさい」を披露した。被災者から当時の体験談を聞き、劇にした。

三河地震を被災した鈴木敏枝さん(75)と姪名美代さん(75)の姉妹から、7月に体験談を聞いた。2人は、大地が強く揺れた恐ろしさをはじめ、家屋の倒壊や死傷者の発生による混乱と不安、余震が続く中での不自由な生活などを生々しく語った。

劇では、ナレーターが三河地震の出来や記

非常持ち出しぶくろ



被災姉妹を招待



人が何度も容赦して当
時を振り返った。そし
て、地震の発生から被

害の規模、被災者の生
活などを約30分かけて
演じた。2学期から配

役を決め、けいこを続
け、舞台装置や照明、
音響、衣装などすべて
自分たちで手がけた。

児童たちは、東海地
震などに備え、聞いた
話を実際の防災に役立
てようと、2人の体験
談を冊子にまとめ、学
区の防災マップを作っ
た。体験談に沿った劇
を創作した岩月佐江子
教師は「被災者の体験
談なので迫力が強い、
子供たちへのインパク
トも大きい。劇の上演
で子供たちも一段と身
につくのではないかと
話している。

15日午前8時半～正
午に、保護者や地域住
民を招いて上演する。

【安間教雄】

3 (震災) 同僚死とはどういう死か。

地震・心不全・心筋梗塞・呼吸不全・脳卒中
震災の直接的な害では無く間接的害による死亡例の総
称。火災や倒壊など直接的な原因でなく、病気・ストレス
発作・自殺などの間接的原因による死亡例を指す。

4 (震災) 同僚死の原因はどのようなことか。

- ・病気 (同僚死を防ぐためにはどうすればいいか)
- ・ストレス (ストレスがたまらないように、せわしやでも少し動く)
- ・発作
- ・自殺
- ・呼吸不全
- ・心筋梗塞 (大切な人が死んでしまったら、大切な人の分を生きようという
心を持って生きろ)
- ・心不全 (過労死にならないように、体力をこらえて、十分に休む)
- ・肺炎 (食料不足を予防するために非常食を優先して)

地震に負けない！（11月15日志貴小学校学芸会）



劇は被災姉妹の想起のかたちで進行する



4場面：三河地震の発生

ナレーター7：昭和20年1月13日 午前3時30分 三河地震が発生しました。おばあちゃんといこは娘屋、わたしたちは娘屋の座敷に寝ていました。

効果音：ゴー、ドンドンドンドンガーン、ガッシャー

父3：外へ出なあかん！

祖母2：みんな大丈夫かい。

典代2：ほこりがすごくて、目が痛い。

敏枝3：ほこりがすごくて、息ができない。

母3：壁士のほこりがすごいねえ、みんな袖を口にあてて、なるべく吸い込まないようにね。

*あたりから、生き埋めになった人の「助けて、助けて」という声が聞こえてくる。

*木の「ウーウー」といううなり声が聞こえてくる。

妹1：ほこりでよく見えないけど、「助けて、助けて」って聞こえるよ、お母さん。

妹2：あれは牛？ 苦しそうなうなり声。

いとこ：「声が聞こえなくなっちゃったよ、死人じゃったのかなあ。」

父3：助けてやりたいが、こっちもそれどころじゃない。

母3：夜中の3時で、火を使っていなくてよかったよ。

祖母2：もし、火を使っている時だったら、木造だし、道は狭いし、道もガレキで埋まっているしねえ、全部燃えてしまうところだったよ。

*息の家が「ガッシャー」といって転ぶ。

息の家のおばさん：敏枝さん、火がでてきたで助けて！

敏枝3：おばさん、大丈夫、（バケツで水をかける）

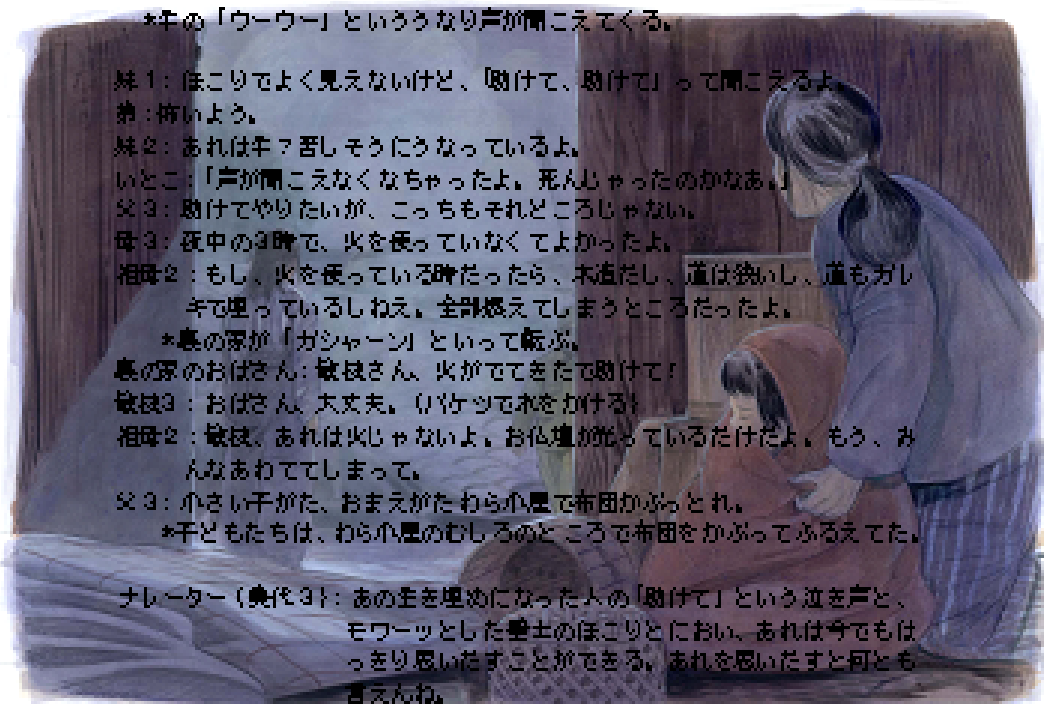
祖母2：敏枝、あれは火じゃないよ、お仏壇が燃えているだけだよ、もう、みんなあわててしまって。

父3：小さい子がた、おまえがたわら小屋で布団をかぶるとれ。

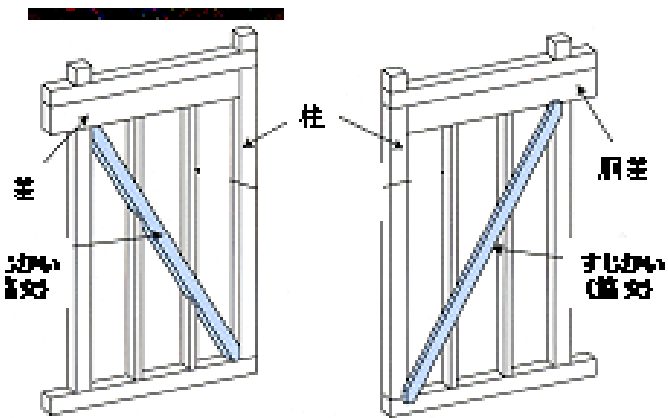
*千どもたちは、わら小屋のむしろのところで布団をかぶってふるえてた。

ナレーター（典代3）：あの生き埋めになった人の「助けて」という泣き声と、モワッとした壁士のほこりに対し、あれは今でもはっきり思い出さずことができる。あれを思い出すと何とも言えんね。

ナレーター（敏枝4）：ただ、最初「助けて、助けて」って書いてても、何回



筋交いのはいった家



むかしのいえ

3) 近所で1軒だけ、地震で倒れなくて無事だった家がありました。なぜ、その家だけ倒れなくて無事だったのでしょうか。

生活を建てなおす

後かたづけ
親せきも被災者
水と食べ物
みんなでご飯
お風呂



わたしたちとお客さんの感想



最後に絵を写しながら合唱

1 聞いた話を実際に演じてみて感じたこと

昔の人はおたがいの助け合っていていいなと思いました。ごえもんさんでも近頃の人がきてもいれていただき。ごは人のせきも当番がきたら、ごは人を家族みんたていやっていいなと思いました。今は、みんなが自分の意見を主張して、助け合うことがあまりない人も出てくると思います。人を思いやれる人が増えてほしいなと思いました。

1 聞いた話を実際に演じてみて感じたこと

実際に演じてみて本当にこんなことがあったなんて思うと、おくておくて、でもこの大変さとお話をみんなに知ってもらえてよかったです。この思いを知識はどのような備えをすればいいかがおぼえられたと思います。

- ・ 連合町内会長「町内にある井戸の総点検を4月以降に行う」
- ・ 家族：家族防災会議の開催と防災ハンドブックの作成



お客さん(右下が被災者の敏枝さん・美代さん)

